

研究専攻（専門領域）		文化環境専攻（情報システム）		学籍番号	08CS028
氏名	趙 一璐	ローマ字	ZHAO Yilu	国籍 (留学生)	中国
修士学位論文名	システム運用管理を中心とした開発アプローチ —授業管理システムの再構築事例—				
提出年月日	2010年1月12日		指導教員	内木哲也	
体裁 (論文)	37頁(1頁文字数1600字)		言語	日本語	
別冊添付資料等					
キーワード	情報システム EUD システム運用管理 授業管理システム				
<p>大規模な情報システムの運用管理は従来、それを開発する情報システム部門の専門スタッフが担ってきた。そのため、運用管理に支障がないようシステムを開発することは当然であり、開発アプローチとしても、利用者の要求を満たしつつ開発者と合意形成するための議論が中心で、運用管理については明確に議論されてこなかった。</p> <p>しかし、利用者の要求を完全に満たすことは容易ではないため、ダウンサイジングの進行による利用者の意識やスキルの向上に伴い、利用者自身がシステムを開発する EUD が日常的になされるようになってきている。EUD によるシステムは小規模なものであり、利用者自身の開発であるため、システムに対する要求を的確に反映でき、要求を満たすシステムを比較的容易に開発できる。その一方、EUD システムは利用者自身が運用しなければならない。EUD システムの開発者にとって正規の仕事ではないシャドウ・ワークに過ぎないが、他の利用者へのサービスを開始した途端に、定常的に対処しなければならない大きな負荷となり、システムの機能維持さえ難しくなることさえある。従って、EUD によるシステムにおいては、要求分析以上に、運用管理を考慮した開発アプローチが必要となるのである。特に、<u>このようなシステムの設計においては</u>、システムが扱うデータの運用管理が重要であり、そのためには、<u>利用者</u>全員で役割を分担し、それぞれの利用者がシャドウ・ワークとなっている運用管理を負担できるような開発アプローチが不可欠と考えられる。</p> <p>そこで本論文では、EUD システムが直面する運用管理の問題への取り組みを念頭に、運用管理を中心とした開発アプローチの必要性を議論すること共に、その有効性を、実際の EUD システム事例分析を通して検証することを目的としている。</p> <p>はじめに、従来のシステム開発プロセスと開発アプローチの動向を概観し、EUD が興隆してきた背景について述べた。そして、EUD システムが運用管理の問題に直面してしまう本質的な要因を明らかにすると共に、この問題に対処するためには、運用管理を中心とした開発アプローチが必要であることを述べた。</p> <p>次に、このアプローチの必要性を実際の EUD システムの事例分析を通して明らかにした。具体的には、埼玉大学教養学部の授業で運用している EUD システムである「jkiso」を取り上げ、そのシステムが直面している利用者拡大という運用環境の変化がもたらした問題状況を分析した。この問題状況の解決には、利用者相互の権限と役割分担を考慮すべきであることを示すと共に、利用者相互の適切な管理役割を分担できるように現行システムのモデルを再設計した。</p> <p>最後に、このモデルに従って、「jkiso」システムの再構築を行い、実際の運用に供することを通して、本論で主張するシステム運用管理を中心とした開発アプローチの有効性を評価した。</p>					